

パイナ・ワイキキ

ワイキキ ビーチ マリオットのルアウショー

演目内容

カ・ラニ・オ・マウナアラ(フラ・カヒコ:古典フラ)

パイナ・ワイキキのために書き下ろされた新しいオリジナルのメレ(ハワイ語で詠唱、歌、詩の意)

– カマラニ・キア作

かつてワイキキのビーチ沿いに居を構えたハワイ王家の方々に、敬意を表し作られたオリジナル曲。ハワイ王朝の高貴な方々は才に長け、数多くの歌やチャント(詠唱)、表現力豊かな詩を残しました。彼らはしばしばワイキキを訪れ、ハワイ王国の将来について思いを馳せたといわれています。フラ・カヒコ(古典フラ)で踊られるこの演目は、瀟洒な邸宅や緑あふれる自然美、そしてワイキキを我が家と呼んだハワイ王家の方々のストーリーを、生き生きと再現しています。

オテア・タイト

パイナ・ワイキキのために書き下ろされた新しいオリジナルのオテア(タヒチアンダンス)

– アファティア & レフォラサ・ガレイイ作

1960年代、ワイキキのクイーンズ・サーフにあった「プカ・プカ・オテア」は、誰もが知る人気のサパークラブでした。魅惑的なタヒチのドラムビートは界限中に聞こえるほどで、激しく腰を振る動きが、世界中からやってきた観光客を魅了したものです。タヒチの魅力的な音楽とダンスをワイキキで初めて紹介したのは、このショーを制作するティハティ・プロダクションです。

ケイキ・フラ・ノ・リリウオカラニ

エ・リリウ・エ – トラディショナル

リリウオカラニ女王はハワイ王国最後の君主で、パオアカラニとケアロヒラニという名の2軒の屋敷をワイキキに所有し、そこで多くの時間を過ごしたとされています。ここワイキキは彼女にとって、さまざまな思いを巡らせたり、ゆっくりと静養しリラックスできる場所だったのです。女王は信心深く教養があり、音楽家としても非凡で、数多くの名曲を残されました。彼女が成し遂げた数々の功績のなかでも賞賛すべきは、ハワイの将来を担う子どもたちへの深い愛情でしょう。彼女が残した個人信託を通して、たくさんの方々のハワイの孤児たちへ救いの手が差し伸べられています。このメレを踊るケイキ(ハワイ語で「子ども」の意)ダンサーのフラは、国民に愛されたリリウオカラニ女王へ捧げる贈り物です。

トゥアモトゥ・アパリマ

トゥム・イティ・ア・マエ – トラディショナル

ハワイとポリネシアの島々は、海洋民族として多くの共通項を持ち、深い関係にあります。最新機器や計器がなくとも、ポリネシアのナビゲーターたちは、海と空の状況だけを頼りに何千マイルという距離を航海し、広い海を島から島へと渡ることができました。ポリネシアン・トライアングル(ハワイ諸島、イースター島、ニュージーランドの3点を結んだ三角形のエリア)の北端の島にたどり着いた我々の祖先は、緑豊かなハワイの島々を見て歓喜し、今の発展をきっと想像したに違いありません。そんな高揚感を分かち合うべく、アパリマをお届けします。これは今もハワイに影響を与え続けるトゥアモトゥ諸島発祥の踊りで、テンポが速く、激しい腰の動きが特徴です。

マリエ・トンガ

パイナ・ワイキキのために書き下ろされた新しいオリジナルのマコ(トンガのウォリアーダンス) – ウォルター・トンガ & シア・トンガ作

– ウォルター・トンガ & シア・トンガ作

長年にわたり、ハワイ王家と南太平洋の王家とは強い絆を築いてきました。全ポリネシアに唯一残るトンガ王国とは、今日でもそんな強い結びつきが存在しています。ポリネシア全域で崇敬されるトゥポウ家は、ご家族で頻繁にワイキキを訪れ、その自然美を楽しまれるとともに、何代にもわたって続いてきた強固な関係性や、歴史的な王室親交を今も深めておられます。

ハノハノ・クーヒオー

パイナ・ワイキキのために書き下ろされた新しいオリジナルのメレ

– プカ・アーシング、アイナ・アーシング、アフアティア作

このメレは、ハワイ王家のジョナ・クーヒオー・カラニアナオレ王子を讃えるために、ハワイの女性たちが踊る軽快なインプルメント・フラ(ダンサーが音の出る独特の道具や楽器を手を持って踊るフラ)です。彼は国民からケ・アライ・マカアイナナ(臣民の王子)の愛称で呼ばれていました。それは、ハワイ王朝の消滅後も、ハワイの人々のために土地を守り残すことに彼が惜しまぬ努力をしたからです。女性のダンサーはラーイー(伝統的なティ・リーフ)という葉っぱで作ったスカートを身につけ、ウリーウリー(羽のついたマラカスのようなもの)と呼ばれる楽器を使って、クーヒオー王子と彼のハワイ国民への愛情を讃えています。

フラ・アウアナ・カーネ(男性ダンサーによる現代フラ)

師匠のための漁／ナ・オノ・オ・カ・アイナ(おいしい大地の恵み) – ビル・アチャリー／トラディショナル

ご存じのように、太平洋に囲まれたハワイは海の幸に恵まれ、特に魚は古代ハワイアンにとって主要な食糧であり、今も皆の大好物です。漁師に扮したダンサーがこのフラ・アウアナ(現代フラ)で表現するのは、ワイキキでどんな魚が採れたか、また大物を釣り上げた漁師の自慢話など、ユニークで楽しいストーリーです。

ハパ・ハオレ・フラ・メドレー

(歌詞に英語とハワイ語が混在する楽曲のメドレー)

ラブリー・フラ・ハンズ – R. アレックス・アンダーソン作

1930年代、今我々が座っているこの場所は、ララニ・ヴィレッジと呼ばれていました。ジョージ・モスマンがデザインし、昔のハワイアンの暮らしぶりやさまざまな光景を、観光客が体験できるようにしたところだったのです。そして訪問客が増えると同時に、ハリウッド(映画界)もハワイに興味を示すようになりました。ジョージ&エマ・モスマンの長女であるプアラニは、ハワイで制作された初のカラー映画「Song of the Islands(島々の歌)」に出演しています。さらに彼女が劇中で踊ったフラの手の動きにインスピレーションを受け作曲されたのが、R. アレックス・アンダーソンによる「ラブリー・フラ・ハンズ」です。この楽曲を含むメドレーで、ワイキキの黄金時代へとタイムトリップしてみてください。

シヴァ・サモア

パイナ・ワイキキのために書き下ろされた新しいオリジナル – アフアティア & レフォラサ・ガレイイ作
世界中から旅行客が訪問するハワイは、いわゆる「人種や文化のるつぼ」となっていました。そのなかでも、ハワイのローカル文化に大きな影響を与えたのがサモアの島々です。彼らの楽しく遊び心あふれるマウルウル(女性による優雅な踊り)やファアタウパティ(男性が体を叩きながら踊る)という踊りは、ワイキキで繰り広げられるショーの構成にも多大な貢献をしています。こういったダンスがワイキキで初めて紹介されたのも、クイーンズ・サーフにあったサパークラブ「プカ・プカ・オテア」でのことでした。この曲は、ポリネシアの隣人、サモアの人々とのつながりを賛美する踊りです。

クヒオ・ビーチ

イヒラニ・ミラー作

ワイキキはいつの時代でもロマンスの生まれるところです。穏やかに吹く海風、その風に揺れる椰子の木、そして空には美しい月。クヒオ・ビーチにはそのすべてがあり、ハワイが忘れがたくロマンティックな場所だと特別に感じるのです。この有名な楽曲とフラを、結婚記念日のお祝いや新婚旅行でお越しの方々、またラブラブなカップルのみなさんに贈ります。

シヴァ・アフィ

サモアン・ファイヤーナイフ・ダンス

ポリネシアの舞台芸術のなかで、最も危険かつ崇敬されているのが、シヴァ・アフィという炎で燃える剣刀の舞です。古代の戦いにおける舞踏儀式に由来し、今日では世界中でその競技会が開催されるほどです。シヴァ・アフィがハワイ諸島で最初に紹介されたのも、ここワイキキでした。ファイヤーナイフダンスの先駆者として知られる演者が、クイーンズ・サーフにあったサパークラブ「プカ・プカ・オテア」でその技を披露したのです。パイナ・ワイキキでは、ファイヤーナイフダンスの世界チャンピオンだけでなく、最年少のケイキ(子ども)ダンサーの妙技をご覧ください。これは現在のところ、ハワイのほかのルアウでは見ることはできない、特別な演舞です。

オリ・オリ・タトウ・エ

観客の参加によるコーナー

さあ、みんなで踊りましょう！ 旅の思い出、そしてハイライトとなること請け合いの、お楽しみコーナーです。演者が客席に降り、ステージに上がる参加者をお誘いに参ります。そして、躍動的な太鼓のリズムに合わせて踊り、ポリネシアの芸術文化を実際にご体験ください。

フィナーレ

誇り高きポリネシアの人々の歌と踊りをご堪能いただきながら、ショーはエンディングを迎えます。